

子どもの理解と支援

12月24日(火)、1回目に引き続き、井上 修一 先生(岐阜県スクールカウンセラー、臨床心理士・公認心理師、各務原病院心理士)をお迎えし、本年度2回目のほほえみ教室教育相談研修会を行いました。当日は、年末の忙しい時期にも関わらず、保護者の方や教育相談担当の先生合わせて16名の参加がありました。

今回の研修では「子どもの抱える問題～医療現場から～」というテーマで、来院する子どもをタイプ別に分け、それぞれをどう捉え、どう理解し、その後どう支援していくかをお話いただきました。また、講話に引き続き、参加者自身が抱える問題について質問し、それに対して先生よりご指導・助言もいただきました。

<子どもの抱える問題>

～医療現場から～

◇来院する子どもたち

<主 訴>

- 不 登 校
 - ・ いじめられた
 - ・ 先生にしかられた
 - ・ 集団生活が苦手
 - ・ なんとなくいきたくない

⇒

- ◎ 自己肯定感の回復
 - ・ 取り組みやすいこと本人のペースでやっていく。
 - ・ 生活のリズムを整える。
 - ・ 気分に関係なくできることを継続的にできる。
 - ・ できていることに注目し、声をかけてもらう。

行動活性化

- ゲーム依存
 - ・ 時間制限をかけても破られる
 - ・ 夜中までゲームをやっている
 - ・ かなりの額を課金している

⇒

- ◎ コントロールする力の回復、リアルな世界の充実
 - ・ 子どもがやっているゲームを理解する。
 - ・ その上でゲームする時間や場所を話し合って決める。
 - ・ お金の使い方を話し合って決める。
 - ・ ルールを書面に書いておき、守れなかったときの約束も決めておく。
 - ・ 家族全員で、そのルールを守る。

- 発達障がい
 - ・ 保護者が子どもの特性を見て受診
 - ・ 学校の先生に勧められて受診
 - ・ ネットで見て、自分は発達障がいではないかと疑い受診

⇒

- ◎ 自己理解の促進と対応策の模索・環境調整
 - ・ 発達検査(WISC、ADOSなど)
 - ・ 特性を伝えて、気をつけることを一緒に考える。
 - ・ 実際に日常生活でやってみて評価する。

◇こんなお子さんも


- 心に傷を負っている子ども…
 - ・ 単回性 PTSD
 - ・ 複雑性 PTSD

- ◎ 脳に及ぼす影響
 - ・ 分離不安の増強による退行反応
 - ・ フラッシュバックや悪夢、過覚醒によりより短気・神経質になる


◇支援する上で大切なこと

見立てと目的を共有する。→それぞれの役割を確認する。→実践後に実践そのものの効果を検証する。

《参加者アンケートから》




初めてこのような研修会に参加させていただきました。子どもと一緒にいる時間に、何がよくて何が悪いのかを見失っていて、いつもこの対応でいいか不安になっていました。今日の研修で「自己肯定感の回復」のためにも子どものしたことを認めて、褒めていけたらと思いました。そして、もっと子どもの気持ちに寄り添って、しっかり話を聞いてやりたいと思いました。(保護者より)



児童・生徒をタイプ別に分け、具体的な事例をあげて説明してもらえ、現場に当てはめて考えたり、今後の見通しを持ったりすることができました。また、講話後の相談の時間も、学校としての課題に直接アドバイスいただけとてもありがたかった。今後も、年間を通して継続的で一貫性のある研修会を期待します。

(小学校職員より)



トラウマの話は、とても興味深かったです。不登校の子は、やはり何かに傷ついています。娘二人不登校でしたが、二人の仲がうまくいかなかったりも何かお互いに傷ついているのかなと思いました。「もしかしたら治療を受けることによって、二人の仲に変化が起こり、妹のネット依存も収まるのでは…」と考えながらお話を聞きました。今日は来てよかったです。ありがとうございました。

(保護者より)